土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　防地川　通常砂防事業に伴う測量等業務委託　その他河川　防地川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.3	**調査位置**	広島県尾道市防地町			**北緯**	34° 25′ 3.4150″
発注機関	広島県東部建設事務所三原支所			**調査期間**	2023年 2月 6日 ～ 2023年 2月 7日	**東経**	133° 12′ 31.4604″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 44.17m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 21°
総削孔長	6.00m					**使用機種**	**試錐機** 東邦地下工機 D1-B58
							エンジン ヤンマー NFD-13
							ポンプ 東邦地下工機 BG-3B

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	43.67	0.50		シルト質砂		暗褐 黄褐			第四紀	0.25mまでは腐葉土。上分は細砂が主体。0.25m以深、細砂とシルトからなる中間土。	
1	42.17	2.00		強風化ひん岩		黄褐				コア区間では岩組織不明瞭であるが、貫入試料では辛うじて斑状の組織を認める。 全体にシルト～砂状コアを呈す。 弱い固結度を有し、コア表面を軽く押したぐらいでは崩れない。 DL級岩盤（緩い砂質土相当）に区分される。	
2	41.17	3.00		強風化ひん岩		黄灰褐				半固結シルト～砂状コアを呈す。 岩組織は十分に認識しうる。 指先で揉むとシルト～細砂粒径まで粉砕可能である。 風化を免れた石英粒が点在する。 DM級岩盤（締まった砂質土相当）に区分される。	
3	38.17	6.00		風化ひん岩		灰褐			白亜紀	均質に風化し、半固結の土棒状コアで採取される。 コア表面を押しても、少しへこむ～容易にはへこまない程度の固結度である。 ただし、強い力で押せば、土砂状に崩すことは可能である。 指圧で粉砕すると、細砂状（一部は細礫混じり）となることが多い。 試料の含水は、コア、貫入試料ともに低い。 孔底まで岩盤然としたコアの出現は見ない。 DH級岩盤（軟岩I相当）に区分される。	02/07 4.40 02/08 5.98

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
15	1.15～1.45	4	5	6	15/300		
41	2.15～2.45	11	14	16	41/300		
50	3.15～3.45	12	15	23	50/300	300	
50	4.15～4.45	12	16	22	50/300	300	
75	5.15～5.35	17	33		50/200	200	
94	6.15～6.31	20	30 / 60		50/160	160	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					2/6 2/7